



R.I. D.2740 JAPAN  
佐世保ロータリークラブ

会長:松尾 文隆 幹事:安福 竜介  
事務所:佐世保市島瀬町10-12 十八親和銀行 佐世保本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323  
例会場:レオプラザホテル佐世保(毎週水曜日) TEL 0956-22-4141  
http://www.sasebo-rc.jp/ E-mail:src@circus.ocn.ne.jp

令和 8 年 3 月 11 日

第 3,611 回例会

NO 33

《本日》会員数 84名(出席規定免除 21名)・出席 58名・欠席 26名・(内免除者欠席 10名)・ビジター 0名・出席率 69.05%  
ゲスト 2名  
《2月25日》会員数 82名(出席規定免除 21名)・出席 60名・欠席 22名・(内免除者欠席 10名)・メイクアップ 3名・修正出席率 87.50%

## 会長挨拶

会長 松尾 文隆

皆さん、こんにちは。本日も定刻よりお集まりいただきありがとうございます。

15年前の3月11日、東日本地方が大震災に見舞われました。この震災により犠牲となられた全ての方々に対し哀悼の誠を捧げ、御霊の安寧をお祈りいたします。

先々週の創立記念日(観梅)例会時に当クラブの認証番号7745についてお話させて頂きました。その際、不明な点につき福田金治パストガバナーにお尋ねした所、後日わざわざ、お訪ね頂き詳細な資料を頂戴致しました。1951年3月30日(創立2月21日)佐世保RCに認証番号7745が付与されました。日本で53番目です。認証番号が最後に付与されたのが岡崎RCで、日本で62番目、1951年6月18日、当クラブが認証番号を付与された3ヶ月後足らずにあたります。

同年の7月に入りますと、認証番号の付与が無くなり、2740地区で認証番号が付与されているロータリークラブは親クラブである長崎RCと佐世保RCの2クラブだけです。

余談ですが、当初、国際ロータリー日本支部の資料では、佐世保RCは54番となっておりましたが、国際ロータリーでの認証番号が53番目となっており、照合の結果、戦時中に日本のRCが国際ロータリーから脱退し、戦後再加盟、再認証を要した際、佐世



保より古参の北見RCが再認証を取得せず、佐世保RCが繰り上がった記録が残されています。貴重な本クラブの歴史の継承として皆様にお知らせし会長挨拶といたします。

報告事項(持回り理事会)

田村和夫さん・宮川誠さん・藤澤心哉さんよりの退会届を受理  
(何れも転勤の為)

## 例会記録

- ロータリーソング「我等の生業」
- ゲスト

日本防災士会 させぼ防災ネットワーク  
代表 直木隆一郎 様  
渋谷 香奈 様

## 入会式

■初瀬 隆太 さん

有限会社アールテック 代表取締役  
推薦者/松尾 文隆さん  
福田 金治さん  
カウンセラー/福田 金吾さん  
委員会配属/親睦活動委員会  
出席委員会





## 委員会報告

### ■IM開催に当たって

第5Gガバナー補佐 増本 一也  
 実行委員長 円田 浩司  
 委員 廣瀬 章博

本日は、5月14日(木)に開催いたしますIMの件で、RI第2740地区第5Gガバナー補佐として、皆様にご協力をお願いにあがりました。



今回のIMは、第5Gと第6G合同で開催いたしますが、主催クラブは私達の佐世保RCになります。IMの実行委員長は円田浩司さんをお願いしております。

現代の資本主義社会は、株主第一主義による影響で、経済格差が進み、貧富の格差が激しくなっております。それは、ローター職業奉仕の理想とはかけ離れたものとなっております。また国際ロータリーにおいても職業奉仕は社会奉仕の一部とみなされ、ロータリー活動の根幹をなす職業奉仕の理念は年々薄れつつあります。この現状を、第6Gガバナー補佐前田眞澄さんと憂え、今回のIMのテーマをこれからの職業奉仕のあり方を考える場にしようと話し合いました。

会社は世の中の役にたつ為にあります。『会社は社会の公器』と日本では古くから言われてますが、現代の資本主義社会において、ロータリーの職業奉仕の理念とどうリンクさせていくのか皆さんと考えていきたいと思っています。

そして講師として、世界的に活躍されているアライアンスフォーラム財団理事長の原丈人様をお迎えして経営者としての見識を深めもらい、ロータリー活動に生かしていただければと考えた次第です。

現在、原丈人さんは、アメリカに拠点を置き、現在も日々世界中を飛び回られておられます。日本より世界で有名な日本人です。世界中に教育を受けた豊かな中間層を増やし潤いのある社会の実現に向けて、日々活動を続けられておられます。

## 幹事報告

幹事 安福 竜介

### 1. 国際ロータリー第2740地区

#### 2025-26年度ガバナー事務所

2026年台北国際大会のご案内資料  
 2026年台北国際大会の早期割引登録期限  
 3月31日が近づいてまいりました。

### 2. 国際ロータリー第2740地区

ガバナーエレクト 中島健太郎 さん  
 次期地区幹事 米濱 誠二 さん

2026-27年度会長エレクト・次期幹事ラー  
 ニングセミナー開催について (ご案内)

日時/2026年4月19日(日)

登録受付 12:00 点鐘 13:00

懇親会 17:30

場所/長崎サンプリエール

### 3. 佐世保北ロータリークラブ

幹事 船津 学 さん

例会場変更のお知らせ

### 4. 国際ロータリー第2740地区

第5グループガバナー補佐 増本 一也 さん

第6グループガバナー補佐 前田 眞澄 さん

IM実行委員長 円田 浩司 さん

2025-26年度 国際ロータリー第2740地区  
 第5・第6グループ

インターシティミーティング(IM)キャラバン  
 訪問のお願い

また、この理念はロータリーの職業奉仕の理念と同じと考えています。

グローバルな情報を、経営者として新たな視点で吸収することは、経営者としての見識を深められ、ロータリーの活動にも大いに活かすことが出来ると考えます。

その様な理由で、IMの講師としてお願いいたしました。また私たちの故郷、佐世保についても、今後の街づくりの未来設計、都市デザイン等の可能性についてもお話をさせていただく予定です。

私も30数年のロータリー人生ですが、今回、このIMを自分のロータリーライフの集大成ではないかと考えております。皆様、何卒ご協力のほどお願いいたします。



**Rotary** 

2025-2026年度 国際ロータリー第2740地区 第5・6グループ

**INTERCITY MEETING**

**インターシティミーティング**

 第5グループガバナー補佐 増本 一也  
 第6グループガバナー補佐 前田 眞澄

**2026年5月14日(木)**  
14:00 登録受付開始 15:00 点鐘

【記念講演】

**佐世保から始まる”公益のまちづくり”**  
— 地域と企業の共創モデル —

講師 **原 丈人氏**  
— 財団法人アライアンス・フォーラム財団 会長

「世界中に”教育を受けた健康で豊かな中間層”を創る」  
公益資本主義を世界中で提唱されている原丈人さんが初めて佐世保で講演！

登録料 3,000円

【懇親会】 <17:30 ~ 18:45> 参加費 7,000円

【会場】 JA ながさき西海 させぼホール  
佐世保市松浦町2番28号 TEL 0956-24-3123

<お問い合わせ先>  
佐世保ロータリークラブ TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323 src@circus.ocn.ne.jp

<主催> 国際ロータリー第2740地区  
第5グループガバナー補佐 増本 一也 第6グループガバナー補佐 前田 眞澄  
<ホストクラブ>  
佐世保ロータリークラブ 佐世保中央ロータリークラブ

## 講師プロフィール

原 丈人 (はら じょうじ) 様

1952年大阪府生まれ。政策立案をおこなう考古学研究者で事業経営者。

慶應義塾大学法学部卒業後、中米で考古学を研究。27歳でスタンフォード大学経営大学院に入学。その後、工学部大学院に転籍。在学中にシリコンバレーで光ファイバーディスプレイ開発メーカーを創業。1984年デフタ・パートナーズを創業し、情報通信、半導体技術、創薬等のベンチャー企業に出資、経営を行う。1990年代には、自身がパートナーを務めるアクセル・パートナーズが全米第2位のベンチャーキャピタルとなり、シリコンバレーを代表するベンチャーキャピタリストとなる。1985年アライアンス・フォーラム財団を設立し代表理事に就任。「世界中に健康で教育を受けた豊かな中間層を生むこと」を目的とした活動を行っている。並行して各国の政府委員等を歴任。日本では、財務省参与(2005~2009年)、内閣府本府参与(2013~2020年)、経済財政諮問会議専門調査会会長代理など。著書に『増補21世紀の国富論』『公益資本主義』『富める者だけの資本主義に反旗を翻す』などがある。著書で新しい資本主義である公益資本主義を提唱。「利益率」を示す各種経営指標はあくまで「流行」にすぎず、公益資本主義では利益は株主だけでなく従業員、顧客、取引先、地域社会、さらには地球全体に還元されるべきだと主張する。

### <公職のみ経歴抜粋>

- アライアンス・フォーラム財団 (国連経済社会理事会の特別協議資格を有するアメリカ合衆国非政府機関) 会長 (1985~)
- 財務省参与 (2006年10月~2011年12月)
- 経済産業省産業構造審議会委員 (2009年)
- 内閣府参与 (2013年~2020年)
- 政府税制調査会特別委員 (2006年11月~2009年10月)
- 国連政府間機関特命全権大使 (2007~2010)
- アフリカ、ザンビア大統領特別顧問 (2010)

～2012)

- 法務省危機管理会社法制会議・議長 (2020年8月～)
- 大阪大学医学部大学院・招聘教授 (2015年7月～)
- 香港政府HKSTP (科学技術) 特別顧問 (2017～)
- 香港中文大学経営学大学院 (ビジネススクール) 非常勤教授 (2017～2023)
- 大阪市立大学医学部大学院・特別客員教授 (2021年4月～2022年3月)
- 大阪公立大学特別客員教授 (2022年4月～)
- 香港中文大学医学部・荣誉教授 (2021年12月1日～)
- 香港理工大学工学部・荣誉教授 (2023年10月1日～)

## 慶 祝

親睦活動委員会 橋高 秀和

### ○誕生記念月のお祝い

- 納所 佳民さん (8日)
- 中島 祥一さん (12日)
- 増本 一也さん (31日)



## ニコニコボックス

親睦活動委員会 福田登志也

- 松尾 文隆 会長、筒井 和彦 副会長
- 安福 竜介 幹事、内海 暢邦 副幹事
- 福田登志也さん、中島 顕さん
- 山縣 千穂さん、草津 栄良さん
- 廣瀬 章博さん、池田 真秀さん
- 坂元 崇さん、橋高 克和さん

- 古賀 巖さん、納所 佳民さん
- 山口 健二さん、本岡 眞さん
- 田中丸善保さん、中村 徳裕さん
- 梅村 良輔さん、山下 忠則さん
- 松尾 慶一さん

させぼ防災ネットワーク防災士渋谷香奈さんの卓話に期待してニコニコします。

- 松尾 文隆 会長、安福 竜介 幹事
- 内海 暢邦 副幹事、長島正太郎さん
- 大久保利博さん、草津 栄良さん
- 芹野 隆英さん、廣瀬 章博さん
- 池田 真秀さん、坂元 崇さん
- 橋高 克和さん、橋高 秀和さん
- 大城 美枝さん、納所 佳民さん
- 山口 健二さん、藤井 鉄平さん
- 本岡 眞さん、高木 明生さん
- 増本 一也さん、田中丸善保さん
- 中村 徳裕さん、船越 温さん
- 梅村 良輔さん、梅村尚一郎さん
- 長野 哲也さん、山下 忠則さん
- 松尾 慶一さん

新会員 初瀬隆太さん (有)アールテック代表取締役) の入会を歓迎してニコニコします。

- 増本 一也さん、円田 浩司さん

IMへのご理解、ご協力をよろしくお願いたします。

- 米倉洋一郎さん、坂本 敏さん
- 大久保利博さん

朗遊会で入賞しましたのでニコニコします。

- 納所 佳民さん、中島 祥一さん
- 増本 一也さん

誕生祝いありがとうございます。

ニコニコボックス	前回累計	1,414,000円
	本日合計	57,000円
	累 計	1,471,000円

## 卓 話

### 「いつかの災害に、いつも備える ～助けられる人から、助ける人へ～」

日本防災士会 させぼ防災ネットワーク

防災士 渋谷 香奈

ことしの3月11日で15年の節目を迎える「東日本大震災」。



15年前の午後2時46分、どこで何をしていましたか？

テレビに映し出される津波の映像を瞬時に理解し、起こっている状況を把握できた人は果たしてどのくらいいたのでしょうか。

「公助の限界」をあらためて知ることになった大きな災害の一つです。

日本は「災害大国」です。しかし、まだまだ「防災大国」ではありません。

いつか来るかもしれないではなく「災害は必ずやってくる」という前提で備える必要があります。

過去の災害から学び、地名に込められた先人からの警鐘（例：土砂崩れを示唆する「蛇」や、水害を示す「龍」など）に耳を傾け、地域の特性を正しく理解することが重要です。

また「自分たちの地域は災害が少ない」という思い込みを捨て、過去の事例から学び、これから起こる災害を具体的に想像する姿勢が求められます。

全国で地震速報が鳴っていても、豪雨災害が起こっていても、大規模災害のニュースを観ても、私たちは、心のどこかで「自分だけは災害には遭わない」と思っているものです。

これがどんな災害でも避難行動を妨げている「正常性バイアス」です。

どんな人にも存在する「心のバイアス」を知ることでも避難行動を促すヒントに繋がります。

現代の災害では、地震による直接の死因だけでなく、避難生活中的体調悪化による「災害関連死」が深刻な課題です。特に高齢者や障がい者といった「要配慮者」にとって、一般の避難所での集団生活はハードルが非常に高く、リスクが伴います。

そのため、避難とは必ずしも「避難所へ行くこと」だけではなく、在宅避難、車中避難、親戚・知人宅への避難など、自分に合った最適な避難先を平常時から災害の種類ごとに複数考えておく必要があります。避難は「難を避ける」ことです。

防災の基本は、まず「自分自身の命を守ること」。

自分自身が助かることで、はじめて誰かの命を助ける余裕が生まれます。日頃から防災のアンテナを高く持ち、学び続けることで、「助けられる側」から「助ける側」へと一步踏み出すことが、真の地域防災に繋がりを底上げするチカラになると信じて、地道な啓発活動を続けています。



